

序

市野川 容孝

2016年度の調査は計5つの班からなり、そのうちの2つの班の報告書が第1分冊、他の3つの班の報告書が第2分冊となっている。全体の構成は、以下のとおり。

第1分冊 地域社会における事業創出と雇用

第1部 地域型クラウドファンディングの可能性に関する一考察（A班）

第2部 大学キャリアセンターによる就職支援の実態調査——大学規模／入学難易度／地域性による差異に着目して（B班）

第2分冊 共生に向けた地域社会の実践と課題

第1部 いちよう団地という多文化共生の現場——重なり合うアクターと認識をめぐって（C班）

第2部 中野区のセクシュアルマイノリティ支援——地域レベルでの支援のあり方を考える（D班）

第3部 戦略的訴訟と社会運動——京都朝鮮学校襲撃事件訴訟と反ヘイトスピーチ運動を事例として（E班）

以下に掲載する3つの論文は、上記の3分冊の報告書をもとに、あらたに書き下ろされたものである。

上記A班の調査にもとづく増田理香の論文は、クラウドファンディングが地域創生につながる可能性の有無について、計7名の方々へのインタビューをもとに考察している。B班の調査にもとづく吉田航の論文は、3つの大学を対象に、就職支援の現状と課題について、同じくインタビューを基体もとに考察している。E班の調査にもとづく波多野綾子「反ヘイトスピーチの市民運動」は、京都朝鮮学校襲撃事件訴訟に焦点を絞りながら、主に反ヘイトスピーチの立場にたつ人びとへのインタビューをもとに、人権のさらなる保障に向けた市民運動について考察している。

これらの3論文のみならず、上記のAからEの各調査にご協力いただいた方々すべてに、この場を借りて、あらためて深く御礼申し上げる次第である。